



はじめに

- 自らの意志で死ぬということ
- 死ぬ権利？
- ある臨床医の回想
- 覚悟の死？ 選択された死？

用語の問題: 自殺か自死か

- ある自治体の選択
- 二つの声
- 議論の成熟

自殺は社会の鏡

自殺は、人の命に関わる
極めて「個人的な問題」である。
しかし同時に
自殺は「社会的な問題」であり、
「社会構造的な問題」でもある
(NPO法人ライフリンクの巻頭言より) **良心をめぐって**

日本の自殺の現状

- 自殺者数3万人前後
21764(2016年)近年微減傾向(警視庁)
- 未遂者は？ ×10(推定)
- その影響 遺族、知人 ×10(推定)
- 2010年統計 31690人
交通事故者数(4863人)の6.51倍
- 1日 平均 約何人？ →
- 1時間で約何人？ →

自殺数の特徴とそのイメージ

- 広島市民球場が満員状態の数
- 交通事故死者数の5倍以上
- 20-40歳までの死亡原因一位
- 世界の自殺による総死亡数(毎年100万人推定)は、殺人(50万人)や戦争(23万人)による死亡数より多い。
- 自殺死亡率 米国の2倍、英国の3倍

自殺と文化 日本はなぜ自殺が多いか

- 日本の自殺をとりまく文化
- 腹切り 切腹 心中
- 「姥捨て山」伝説
- 「助けて」と言えない社会 弱さの開示
- 宗教と自殺
欧米の場合は、キリスト教の影響
- カトリック、プロテスタント

自殺の原因

- 「健康問題」が15,802人
- 「経済・生活問題」7,438人、
- 「家庭問題」4,497人、「勤務問題」2,590人
- ただし、原因は単一ではなく、上記含めてそれらが複合的であると考えべき。
→うつ病との関連には要注意
- 19歳以下の男性では「学校問題」、40歳代及び50歳代の男性では「経済・生活問題」

自殺の習性、傾向(日本)

一週間のうちで一番自殺が多いのは？

一年のうちで一番自殺が多い月は？

自殺の多い都道府県は？

対策

WHO世界自殺予防戦略(WHO: SUPRE):

世界自殺予防戦略(SUPRE; Suicide Prevention)

「世界中で自殺が重大な問題であるとの認識が欠如しており、多くの社会ではこの問題を議論することもタブーとされており、…自殺予防は十分に取組まれていない」

「自殺予防のためには、健康関連領域外からの介入も必要なことは明らかであり、健康関連領域とそれ以外の両者による革新的、包括的な多領域からのアプローチが必要である」

「自殺」は予防することができる

- 自殺は「追い詰められた末の死」であり、「避けることの出来る死(avoidable death)」(WHO)

自殺率が高かった海外の諸国では、様々な自殺対策が行われてきた。

- フィンランドでは、国家プロジェクトとして自殺対策に取り組み、10年間掛けて自殺率を3割減少

三つの基本的な認識

- 1) 自殺は追い込まれた末の死
- 2) 自殺は防ぐことができる
- 3) 自殺を考えている人は悩みを抱え込みながらもサインを発している

自殺予防の3段階

・プリベンション

(事前対応:自殺につながりかねない要因を取り除き、自殺を予防すること)

・インターベンション

(危機介入:自殺に密接に関連する危険な行為を早期に発見し、適切に対処することで再度の危険な行為や自殺を予防する)

・ポストベンション

(事後対応:遺された人へのケア)

遺族のケア

- ・自死という物語を共有する共同体
- ・悲しみと罪責感
- ・グリーフケア

悲しみ「悲しみを声に立てなさい。口に出さない悲しみは、荷の勝ち過ぎた心臓にささやいて、それを破裂させます。」(『マクベス』四幕・三場、野上豊一郎訳)

悲しみの表出について リンデマンの論文

re-membering

- ①感情表出
 - ②意味創造(意味再構成)
 - ③意味の社会化 (Neimeyer, 2001)
- 「誰にも言えなかった」
再びメンバーとすること re-membering
「私を覚えてこれを行いなさい」
忘れるということ 覚えるということ



ご清聴 感謝します。

木原活信 kihara0918@ybb.ne.jp

